



現地学会のススメ

大石 直人
黒部市民病院皮膚科部長

コロナ禍が収束し、普通の生活が戻りつつある今日このごろですが、コロナ前と比べてまったく元通りかというとはそうではなく、new normalといった新しい価値観が生まれてきております。コロナ禍を契機に、ハイブリッドやWebでの学会や研究会も多くなり参加のハードルが低くなりましたが、いつでも参加できるため逆に参加が減った先生もおられると聞いております。

以前、某大学教授から、若い医局員がなかなか現地開催の学会に行きたがらなくなったという話を聞いたことがあります。現地で発表や興味のある分野の聴講以外は観光してきてもいいよと声をかけても、積極的には参加したがりないそうです。元来、怠け者である私でも、現地学会には喜んで参加してきました。自分の価値観を押しつける気は毛頭ないものの、若い医師にはぜひ積極的に参加してほしいです。

現地学会を勧める1つ目の理由は、最新の知見が得られることです。特定分野を専門にされている第一人者の先生の講演から、最新の知見を多く学べる機会はそうそうありません。その後、聴講した内容に関し興味がある部分を、論文で探して読むことで理解が深まります。1人で膨大な論文から選ぶよりも効率的と感じます。これはWebでも可能ですが、現地であればその場で質問できなくても、会場内で演者とお会いした際にも質問できる機会があります。

2つ目の理由は、全国の知り合いの先生と会えることです。メールなどで連絡をとることは可能ですが、直接会うことでかしまった話以外にもいろいろな雑談ができ、それが仕事のヒントにつながる可能性があります。

3つ目の理由は、学会前後の街散策です。早朝の散策や地元のスーパーでの買い物は、その土地の文化を深く知ることができます。私は元来好酒家のため、夜は地元の料理と地酒を楽しむことが何よりの幸せです。

最後になりますが、私の先輩が中心となる日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会が2025年4月に金沢で行われます。現在、プログラムを作成中ですが、その分野の中心となる講師陣の参加も決まり、集中して勉強できる環境になると思います。また、懇親会も地酒コーナーを設けるとのことでお酒好きの方にもたいへん満足いただける場になると思います。金沢は見どころが中心部にコンパクトにまとまっておりますので(毎年桜開花の時期は兼六園の無料開放あり)、学会の合間に観光もできると思います。時間がありませんでしたら、私も以前勤務したことがある能登方面にもぜひ足を運んでいただき、復興に協力していただければ幸いです。